

まちづくり交付金 事後評価シート  
高浜地区

平成22年3月

石川県志賀町

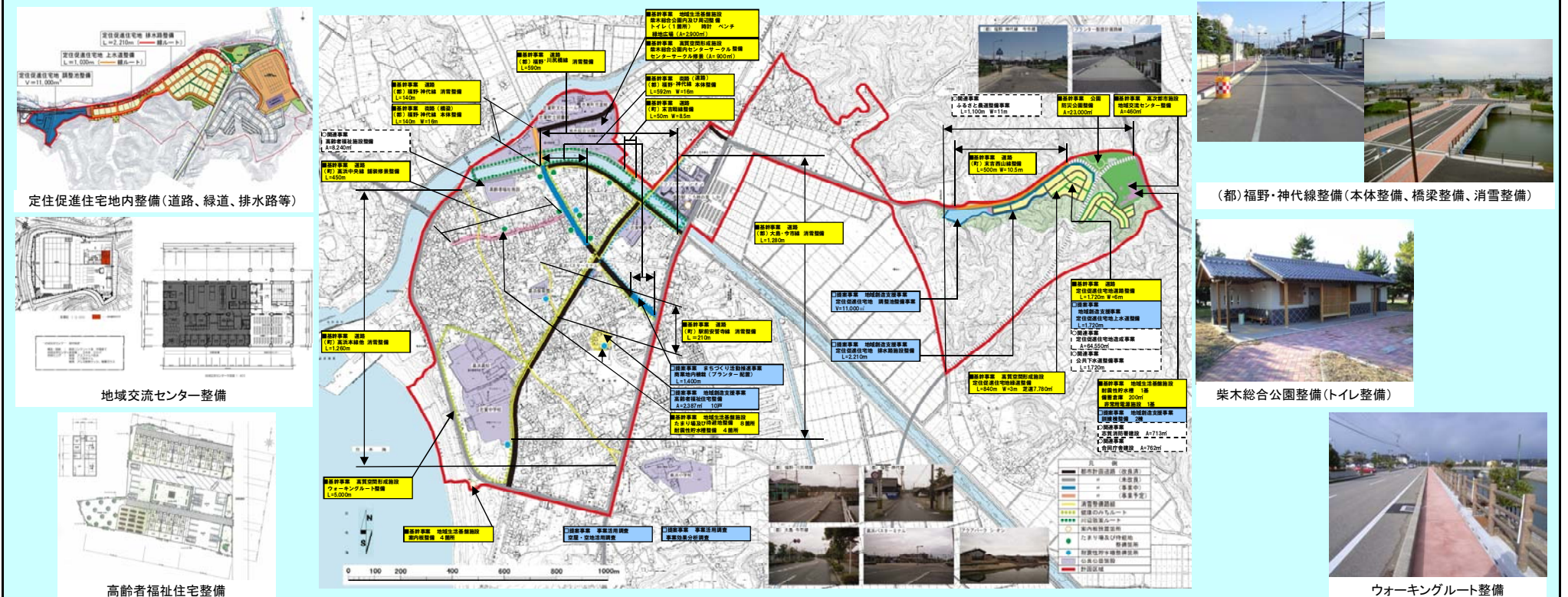
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	石川県		市町村名	志賀町		地区名	高浜地区		面積	176.9 ha											
交付期間	平成17年度～平成21年度		事後評価実施時期	平成21年度		交付対象事業費	2,423百万円		国費率	0.408											
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名 基幹事業 道路((都)福野・神代線、(都)高浜中央線、(都)大島・今市線、(都)福野・川尻橋線)、地域生活基盤施設(広場、情報版、地域防災施設)、高質空間形成施設(緑化施設等) 提案事業 排水路施設整備、調整池整備、上水道整備、空屋・空地活用調査、商業地内植栽																		
	当初計画から削除した事業		事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響												
	新たに追加した事業	基幹事業	住宅街区整備事業、高質空間形成施設(海岸部散策路整備)			事業実施の見通しが立たないため。住宅街区整備事業は、代替事業として高齢者福祉住宅を追加。			影響なし												
		提案事業	まちなか土地利用更新・居住支援事業、まちなか空家活用、コミュニティバスのデマンド化社会実験			事業実施の見通しが立たないため。コミュニティバスのデマンド化社会実験は、市町村合併を踏まえた広域的な観点から抜本的な見直し。			影響なし												
	新たに追加した事業	基幹事業	道路((町)高浜本線 他、(町)駅前安誓寺線、(仮)於古川橋詰線、(町)今市国道連絡線、定住促進住宅地道路、(町)末吉西山線)、公園(防災公園)、高質空間形成施設(定住促進住宅地緑道整備、柴木総合公園内センターサークル整備)、高次都市施設(地域交流センター)			道路の消雪対策・アクセス改善・機能強化、定住促進、防災対策、公園の修景として追加。			影響なし												
		提案事業	地域創造支援事業(高齢者福祉住宅)、事業活用調査(事業効果分析調査)			高齢者福祉住宅は住宅街区整備事業の代替事業として、事業効果分析調査はまちづくり交付金事業の効果分析を実施するため追加。			影響なし												
交付期間の変更	当初	平成17年度～平成21年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響																	
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期									
	指標1	地区人口	人	4,057	H16	4,100	H21	-	4,241	○	あり	まちなかの魅力向上による定住促進に向けた各種事業、及び定住促進住宅地周辺の整備によって地区人口が増加したため、評価値(確定)が目標値を上回る。	-								
											なし										
	指標2	まち歩き者数	人/年	13,151	H15	15,000	H21	-	9,127	×	あり	町全体のバス乗降客数は年々減少しており、高浜BTにおいては評価値(見込み)が目標値を下回るため、1年以内の達成見込みは難しいと考える。	平成22年6月								
なし																					
指標3	文化ゾーン内施設利用者	人/年	84,396	H15	97,000	H21	-	102,886	○	あり	図書館の利用者については休館等の影響で若干減少してはいるが、ほぼ横ばいの状況である。児童館と文化ホールについては、年々、利用者が増加しているため、実績値(見込み)が目標値を上回る。	平成22年6月									
										なし											
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期									
	その他の数値指標1																				
													その他の数値指標2								
4)定性的な効果発現状況		<ul style="list-style-type: none"> <li>若者の定住促進に向けたニュータウンの造成により、定住人口が増加した。</li> <li>まちなかにおいて耐震性貯水槽のある広場が整備されるとともに、ニュータウンに隣接して防災公園が整備されることで、防災機能が向上する。</li> </ul>																			
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況			今後の対応方針等														
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた			-														
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した																	
	住民参加プロセス	住宅団地の名称募集		都市再生整備計画に記載し、実施できた			●	今後、計画に適した住民参加プロセスを検討する。													
都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した																					
持続的なまちづくり体制の構築	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた			-															
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した																		

## 様式2-2 地区の概要

### 高浜地区(石川県志賀町) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
目標: 既存の幹線道路や公共施設を有効に活かしながら、安心、快適に暮らすことができる居住環境を整え、定住が促進される市街地の再生を目指す。 ① 高浜地区の定住促進を図る。 ② 安心、快適な暮らしの基盤を整える。 ③ 既存施設の活用促進に努める。		地区人口	単位: 人	4,057	H16	4,100	H21	4,241	H21
		まち歩き者数	単位: 人/年	13,151	H15	15,000	H21	9,127	H21
		文化ゾーン内施設利用者	単位: 人/年	84,396	H15	97,000	H21	102,886	H21



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>定住促進住宅、高齢者福祉住宅の整備等により、地区人口の増加につながった。今後も、定住促進に向けた取り組みを推進することが必要である。</li> <li>中心市街地の道路整備、防災機能も備えたたまり場が整備されるとともに、定住促進住宅地に隣接して広域防災拠点の整備が進んだ。今後、密集地の環境改善によって、より一層の防災対策等が必要である。</li> <li>都市計画道路福野神代線の整備により、中心市街地と文化ゾーンの連携が強化された。今後、文化ゾーンにおけるソフト事業展開、魅力的に楽しく歩けるまちづくりの推進を図ることが必要である。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心、快適に暮らすことができる居住環境を守るため、道路環境の改善や交通安全を推進するほか、中心市街地の活性化及び定住促進等のまちづくり効果を維持する。</li> <li>既存施設の利用を促すためのPRを行うとともに、中心市街地にある既存施設の連携を維持していく。また、住民参加による施設利用を促進する。</li> <li>誰もが楽しく歩けるまちづくりを推進するため、利用しやすい公共交通の充実を図るとともに、道路・公園の維持管理、まち歩きコースの周知徹底やイベントの開催を検討する。</li> </ul>

# まちづくり交付金 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●	—	—	—
B. 目標を定量化する指標		●	—	—	—
C. 目標値	●		指標1「地区人口」の目標値:4,050人	目標値を4,100人に修正(減少から増加傾向へ転換)	定住促進住宅地の第2工区整備に関する事業を追加実施することで、地区外からの移住による一定の人口増加が期待できるため。(平成20年度:第5回変更)
D. その他( 区域の拡大 )	●		117.6 ha	176.9 ha	既成市街地が大部分を占める当初区域内で町外からの若者の定住促進を図ることは現実的に厳しく、就業の場へのアクセスがよい近隣の町有地において若者をターゲットとした住宅地造成を進めることが決定したことから、これを取り込む形で区域を拡大(第2回変更)。その後、定住促進住宅地整備に関する排水系統の見直し(第3回変更)を踏まえて、計画区域に取り込む必要がなくなった優良農地を除外。

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
街路(橋梁)	(都)福野・神代線	583	L=140m、W=16m	640	L=140m、W=16m	事業完了に伴う事業費清算。(平成20年度:第4回変更)	影響なし		●
街路(道路)	(都)福野・神代線	-	-	134	L=592m、W=16m	街路事業からまちづくり交付金に移行して実施するために追加。(平成17年度:第1回変更)	影響なし	●	
道路(舗装修景)	(町)高浜中央線	61	L=450m、W=6m	46	L=450m、W=6m	事業完了に伴う事業費清算。(平成20年度:第4回変更)	影響なし	●	
道路(消雪)	(都)福野・神代線	31	L=800m	14	L=140m	除雪及び消雪対策の見直しにより、消雪パイプ敷設区間を短縮変更。(平成20年度:第4回変更)	影響なし		●
道路(消雪)	(都)大島・今市線	62	L=1,600m	62	L=1,280m	除雪及び消雪対策の見直しにより、消雪パイプ敷設区間を短縮変更。(平成20年度:第4回変更)	影響なし		●
道路(消雪)	(都)福野・川尻橋線	39	L=1,000m	31	L=590m	除雪及び消雪対策の見直しにより、消雪パイプ敷設区間を短縮変更。(平成20年度:第4回変更)	影響なし		●
道路(消雪)	(町)高浜本線 他	-	-	37	L=1,260m	除雪及び消雪対策の見直しにより、消雪パイプ敷設区間を追加。(平成20年度:第4回変更)	影響なし		●
道路(消雪)	(町)駅前安誓寺線	-	-	7	L=210m	除雪及び消雪対策の見直しにより、消雪パイプ敷設区間を追加。(平成20年度:第4回変更)	影響なし	●	
道路	(町)末吉畷線	-	-	27	L=50m、W=8.5m	高浜市街地から柴木総合公園へのアクセスを改善する道路整備が可能となったため追加。(平成20年度:第4回変更) 事業完了に伴って路線名が(仮)於古川橋詰線から変更(平成21年度:第6回変更)	影響なし		●
道路	(町)今市国道連絡線	-	-	-	-	第4回見直し時に追加したが、事業計画の見直しにより削除。(平成21年度:第6回変更)	影響なし		-
道路	定住促進住宅地道路	-	-	154	L=1,720m、W=6m	若者の定住促進に向けた住宅地造成のための都市基盤となる町道整備を追加。(平成19年度:第2回変更)	影響なし		●
道路	(町)末吉西山線	-	-	26	L=500m、W=10.5m	町道の機能強化により、定住促進住宅地の魅力を向上させるために追加。(平成20年度:第5回変更)	影響なし		●

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業		当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
事業	事業箇所名	事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
公園	防災公園	—	—	151	A=23,000㎡	災害に強いまちづくりとして広域的な消防・防災拠点施設の移転と併せて整備するため追加。(平成19年度:第2回変更)	影響なし		●
地域生活基盤施設	柴木総合公園内及び周辺整備	20	A=50㎡(トイレ) L=750m(園路)	41	A=50㎡(トイレ) 時計ベンチ A=2,900㎡(緑地広場)	事業内容とともに事業費を見直し。(随時)	影響なし		●
地域生活基盤施設	たまり場及び狭小道路待避地	14	A=100㎡ 5箇所	42	8箇所	交付対象施設分類を公開空地から広場に変更。整備箇所を6箇所に変更。(第4回変更) 整備箇所を8箇所に変更。(第6回変更)	影響なし		●
地域生活基盤施設	案内サイン整備	9	12箇所	4	4箇所	事業内容とともに事業費を見直し。(随時)	影響なし		●
地域生活基盤施設	地域防災施設(耐震性貯水槽整備) 高浜地区	10	2箇所	19	4箇所	防火水槽整備から耐震性貯水槽整備に変更。備蓄倉庫と非常用電源施設、訓練棟整備を追加。(第3回変更、5回変更)	影響なし		●
地域生活基盤施設	地域防災施設(耐震性貯水槽整備) 定住促進地区	—	—	22	1箇所	防火水槽整備から耐震性貯水槽整備に変更。備蓄倉庫と非常用電源施設、訓練棟整備を追加。(第3回変更、5回変更)	影響なし		●
地域生活基盤施設	地域防災施設(備蓄倉庫)	—	—	27	A=200㎡	防火水槽整備から耐震性貯水槽整備に変更。備蓄倉庫と非常用電源施設、訓練棟整備を追加。(第3回変更、5回変更)	影響なし		●
地域生活基盤施設	地域防災施設(非常用電源施設)	—	—	3	1基	防火水槽整備から耐震性貯水槽整備に変更。備蓄倉庫と非常用電源施設、訓練棟整備を追加。(第3回変更、5回変更)	影響なし		●
高質空間形成施設	ウォーキングルート整備	35	L=5,500m	55	L=5,000m	事業内容とともに事業費を見直し。(随時)	影響なし		●
高質空間形成施設	海岸部散策路整備	3	L=550m	—	—	事業実施の見込みがたたないため削除。(第4回変更)	影響なし		
高質空間形成施設	定住促進住宅地緑道整備	—	—	139	L=840m、W=3m 芝道 7,780㎡	若い世代のライフスタイルに対応した住宅地造成に併せて整備するため追加。(第2回変更)	影響なし		●
高質空間形成施設	柴木総合公園内センターサークル整備	—	—	12	センターサークル修景 A=900㎡	緑地広場機能の再生に向けた園内諸施設の見直しにより修景整備等が必要のため追加。(第4回変更) モニュメントは整備しない方向で再検討となり、事業量及び事業費を見直し。(平成21年度:第6回変更)	影響なし		●
高次都市施設	地域交流センター	—	—	111	A=460㎡	町民相互の交流促進、災害時要援護者などの避難の場としての拠点施設整備を追加。(平成19年度:第3回変更)	影響なし		●
住宅街区整備事業	高浜地内	50	A=1.0ha、1箇所	—	—	当該街区の地権者交渉が難航し、事業実施の見込みがたたないため削除。(平成19年度:第3回変更)	当該事業の代替として、高浜地内の別の場所において高齢者福祉住宅の基盤整備を地域創造支援事業として実施する。		—

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	まちなか土地利用更新・居住支援事業	25	—	—	—	事業実施の見通しが立たないため削除。(平成20年度:第4回変更)	影響なし		—
	まちなか空家活用	20	A=165㎡	—	—	事業実施の見通しが立たないため削除。(平成20年度:第4回変更)	影響なし		—
	排水路施設整備	—	—	143	L=2,210m	定住促進住宅地造成を進めるにあたり排水路施設、付替水路を整備を追加。(平成19年度:第2回見直し)	影響なし	●	
	調整池整備	—	—	83	V=11,000m <sup>3</sup>	詳細設計結果による事業費の見直し。(平成20年度:第4回変更)	影響なし	●	
	上水道整備	—	—	41	L=1,720m	詳細設計結果による事業費の見直し。(平成20年度:第4回変更)	影響なし		●
	高齢者福祉住宅整備	—	—	107	A=2,387㎡、10戸	事業を取りやめた住宅街区整備事業を代替する事業として追加。(平成19年度:第3回変更)	住宅街区整備事業の代替。	●	
	訓練棟整備	—	—	64	2棟	詳細設計結果による事業費の見直し。(平成20年度:第5回変更)	影響なし		●
事業活用調査	空屋・空地活用調査	3	—	3	—	なし	影響なし	●	
	事業効果分析調査	—	—	3	—	まちづくり交付金事業の効果分析を実施するため追加。(平成20年度:第5回変更)	影響なし		●
まちづくり 活動推進事業	コミュニティバスのデマンド化社会実験	5	—	—	—	市町村合併を踏まえた広域的な観点から抜本的な見直しを図る必要があることから削除。(平成20年度:第4回変更)	影響なし		—
	商業地内植栽	10	L=1,000m(10m間隔)	10	L=1,400m(15m間隔)	ルート変更(平成17年度:第1回変更)	影響なし	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
高齢者福祉施設整備事業		高浜地内	1,082	1,082	平成16年度～平成20年度	平成16年度～平成20年度		
ふるさと農道整備事業		末吉地内	544	544	平成15年度～平成19年度	平成15年度～平成19年度		
定住促進住宅地造成事業		末吉地内	53	168	平成20年度～平成21年度	平成19年度～平成21年度		
公共下水道整備事業		定住促進住宅地内	100	90	平成20年度～平成20年度	平成20年度～平成21年度		
志賀消防署建設		定住促進住宅地内	206	179	平成20年度～平成21年度	平成20年度～平成21年度		
合同庁舎建設		定住促進住宅地内	—	202	—	平成21年度～平成21年度		



添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
				基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし	
指標1	地区人口	人	平成21年10月までの他地区からの売買予約申込者及び住民基本台帳人口より評価値を推計。	-	-	4,057	H16	4,100	H21	モニタリング	-	モニタリング	-		
										事後評価	確定見込み ● 4,241	事後評価	○		
指標2	まち歩き者数	人/年	平成21年7月現在までの実績乗降客数から、年間の乗降客数を推計し、評価値とする。	-	-	13,151	H15	15,000	H21	モニタリング	-	モニタリング	-		●
										事後評価	確定見込み ● 9,127	事後評価	×		
指標3	文化ゾーン内施設利用者	人/年	文化ホール、児童館及び図書館の利用者数を集計。文化ゾーンへアクセスする橋梁の供用後の値を月平均とし、評価値とする。	-	-	84,396	H15	97,000	H21	モニタリング	-	モニタリング	-		
										事後評価	確定見込み ● 102,886	事後評価	○		
指標4										モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み	事後評価			
指標5										モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み	事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	まちなかの魅力向上による定住促進に向けた各種事業、及び定住促進住宅地周辺の整備によって地区人口が増加したため、評価値(確定)が目標値を上回る。	-
指標2	町全体のバス乗降客数は年々減少しており、高浜BTにおいては評価値(見込み)が目標値を下回るため、1年以内の達成見込みは難しいと考える。	ただし、高浜BT以外の主な市街地循環バス乗降場の利用者が増加しており、市街地循環バスの全体利用者は増加している。指標設定の際に、点ではなく面としてまちなかの主な乗降場も考慮すべきだったと考える。
指標3	図書館の利用者については休館等の影響で若干減少してはいるが、ほぼ横ばいの状況である。児童館と文化ホールについては、年々、利用者が増加しているため、実績値(見込み)が目標値を上回る。	-

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1							モニタリング			
							事後評価	確定 見込み		
その他の 数値指標2							モニタリング			
							事後評価	確定 見込み		
その他の 数値指標3							モニタリング			
							事後評価	確定 見込み		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・若者の定住促進に向けたニュータウンの造成により、定住人口が増加した。  
 ・まちなかにおいて耐震性貯水槽のある広場が整備されるとともに、ニュータウンに隣接して防災公園が整備されることで、防災機能が向上する。

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した	-	-
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
住宅団地の名称募集	予定どおり実施した	インターネット、広報により募集 実施頻度：1回 実施時期：平成20年5月(1ヶ月間) 実施結果：58名から募集があり『西山台ニュータウン』に名称決定 (募集結果の公表：8月広報)	今後、計画に適した住民参加プロセスを検討する。
	予定はなかったが実施した ●		
	予定したが実施できなかった (理由 )		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要	
なし	予定どおり実施した	-	-	-
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
まちづくり交付金評価検討会	建設課が主管課となり、事業に関連する課(企画財政課、生涯学習課、子育て支援課、生活安全課、商工観光課)と会議し、今後のまちづくり方策の作成と合わせて整理。	平成21年11月11日	建設課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標3					
指標名		地区人口		文化ゾーン内施設利用者					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	(都)福野・神代線(橋梁)	○	道路、公園、防災施設等の整備により居住環境が向上するとともに、定住促進住宅の整備によって地区人口が増加している。	◎	(都)福野・神代線(橋梁)の架け替えや柴木総合公園内及び周辺整備により、周辺環境が改善し、文化ゾーン内施設利用者が増加している。				
	(都)福野・神代線(道路)	○		○					
	(町)高浜中央線(舗装修景)	○		○					
	(都)福野・神代線(消雪)	○		○					
	(都)大島・今市線(消雪)	○		○					
	(都)福野・川尻橋線(消雪)	○		○					
	(町)高浜本線 他(消雪)	○		○					
	(町)駅前安誓寺線(消雪)	○		○					
	(仮)於古川橋詰線	○		○					
	(町)今市国道連絡線	—		—					
	定住促進住宅地道路	◎		○					
	(町)末吉西山線	○		○					
	防災公園	○		○					
	柴木総合公園内及び周辺整備	○		◎					
	たまり場及び狭小道路待避地	○		○					
	案内サイン整備	—		○					
	地域防災施設(耐震性貯水槽整備、備蓄倉庫、非常用電源施設)	○		—					
	ウォーキングルート整備	○		○					
	定住促進住宅地緑道整備	◎		○					
	柴木総合公園内センターサークル整備	—		○					
地域交流センター	○	—							

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標1		指標3					
指標名		地区人口		文化ゾーン内施設利用者					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
提案事業	排水路施設整備	○	〔再掲〕 道路、公園、防災施設等の整備により居住環境が向上するとともに、定住促進住宅の整備によって地区人口が増加している。	○	〔再掲〕 (都)福野・神代線(橋梁)の架け替えや柴木総合公園内及び周辺整備により、周辺環境が改善し、文化ゾーン内施設利用者が増加している。				
	調整池整備	○							
	上水道整備	○							
	高齢者福祉住宅整備	◎							
	訓練棟整備	○							
	空屋・空地活用調査	○							
	事業効果分析調査	○							
	商業地内植栽	○							
関連事業	高齢者福祉施設整備事業	○		-					
	ふるさと農道整備事業	○		-					
	定住促進住宅地造成事業	◎		○					
	公共下水道整備事業	○		○					
	志賀消防署建設	○		-					
	合同庁舎建設	○		-					

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後も定住促進に向けた取り組みを進め、地区人口の増加を図る。	文化ゾーンにおけるソフト事業展開等により、今後も文化ゾーンの利用促進を図る。		
-------	--------------------------------	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標2											
指標名		まち歩き者数											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	(都)福野・神代線(橋梁)	△	バス乗降客数が年々減少し、高浜地区への来訪者そのものが減っているため、目標値は達成できなかった。 柴木総合公園、案内サイン、ウォーキングルートなど、まち歩きを誘う事業がまだ十分に効果を発揮していない。	Ⅲ									
	(都)福野・神代線(道路)	△											
	(町)高浜中央線(舗装修景)	△											
	(都)福野・神代線(消雪)	△											
	(都)大島・今市線(消雪)	△											
	(都)福野・川尻橋線(消雪)	△											
	(町)高浜本線 他(消雪)	△											
	(町)駅前安誓寺線(消雪)	△											
	(仮)於古川橋詰線	△											
	(町)今市国道連絡線	—											
	定住促進住宅地道路	△											
	(町)末吉西山線	△											
	防災公園	△											
	柴木総合公園内及び周辺整備	△											
	たまり場及び狭小道路待避地	△											
	案内サイン整備	△											
	地域防災施設(耐震性貯水槽整備、備蓄倉庫、非常用電源施設)	△											
	ウォーキングルート整備	△											
定住促進住宅地緑道整備	△												
柴木総合公園内センターサークル整備	△												
地域交流センター	—												

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2											
指標名		まち歩き者数											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
提案事業	排水路施設整備	△	〔再掲〕 バス乗降客数が年々減少し、高浜地区への来訪者そのものが減っているため、目標値は達成できなかった。 柴木総合公園、案内サイン、ウォーキングルートなど、まち歩きを誘う事業がまだ十分に効果を発揮していない。										
	調整池整備	△											
	上水道整備	△											
	高齢者福祉住宅整備	△											
	訓練棟整備	—											
	空屋・空地活用調査	△											
	事業効果分析調査	△											
	商業地内植栽	△											
関連事業	高齢者福祉施設整備事業	—											
	ふるさと農道整備事業	—											
	定住促進住宅地造成事業	△											
	公共下水道整備事業	△											
	志賀消防署建設	—											
	合同庁舎建設	—											

※目標未達成への影響度

- ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	中心市街地における密集地の環境改善を図り、魅力的で楽しく歩けるまちづくりの推進を図る。				
------------------	---	--	--	--	--

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
まちづくり交付金評価検討会	建設課が主管課となり、事業に関連する課（企画財政課、生涯学習課、子育て支援課、生活安全課、商工観光課）と会議し、今後のまちづくり方策の作成と合わせて整理。	平成21年11月11日	建設課

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
市街地における定住促進(魅力ある定住環境の創出)	定住促進住宅、高齢者福祉住宅の整備等により、地区人口の増加につながった。	今後も定住促進に向けた取り組みを推進することが必要である。	特になし
安心、快適な暮らしを支える生活基盤及び広域防災拠点の整備(密集市街地の環境改善と広域防災体制の強化)	中心市街地において、道路整備、防災機能も備えたたまり場が整備されるとともに、定住促進住宅地に隣接して広域防災拠点の整備が進んだ。	密集地の環境改善によって、より一層、防災対策を図ることが必要である。また、まち歩きを楽しめる工夫が必要である。	
既存施設の有効活用(中心市街地との連携強化)	中心市街地から文化ゾーンへのアクセス道路となる都市計画道路福野神代線、今市橋の整備により、中心市街地と文化ゾーンとの連携が強化され、既存施設が利用しやすくなった。	文化ゾーンにおけるソフト事業展開、魅力的で楽しく歩けるまちづくりの推進を図ることが必要である。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。



添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	定住促進に関する取り組みの維持	・安心、快適に暮らすことができる居住環境を守るため、道路環境の改善や交通安全を推進するほか、中心市街地の活性化及び定住促進等のまちづくり効果を維持する。	・狭あい道路の改善、交通安全対策の推進 ・定住促進住宅地及び周辺の維持管理 ・空屋・空地活用調査結果の活用 等
	既存施設との連携維持	・既存施設の利用を促すためのPRを行うとともに、中心市街地にある既存施設の連携を維持していく。また、住民参加による施設利用を促進する。	・既存施設利用を促すPR ・住民参加促進 ・道路の維持管理 等

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	歩けるまちづくりの推進	・誰もが楽しく歩けるまちづくりを推進するため、利用しやすい公共交通の充実を図るとともに、道路・公園の維持管理、まち歩きコースの周知徹底やイベントの開催を検討する。	・公共交通の充実 ・道路・公園の維持管理 ・まち歩きコースのPR・イベント開催 等
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

● 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
● 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
● 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
● 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
● 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

特になし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	地区人口	人	4,057	H16	4,100	H21	確定 ●	4,241	○	あり	→	—	—	—
指標2	まち歩き者数	人/年	13,151	H15	15,000	H21	確定 ●	9,127	×	あり ●	→	平成22年6月	平成22年5月31日に公表予定の市街地循環コミュニティバス年間乗降客数を用いる。	—
指標3	文化ゾーン内施設利用者	人/年	84,396	H15	97,000	H21	確定 ●	102,886	○	あり	→	平成22年6月	文化ゾーン内における各施設の利用者数が公表予定であることから、この確定値を用いる。	—
指標4							確定			あり	→			
指標5							確定			あり	→			
その他の数値指標1							確定			あり	→			
その他の数値指標2							確定			あり	→			
その他の数値指標3							確定			あり	→			

## 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・道路、公園、防災施設等の整備により居住環境が向上するとともに、定住促進住宅の整備によって地区人口が増加した。 ・また、中心市街地と文化ゾーンの連携強化により、文化ゾーン内施設利用者の増加傾向が見られた。	・今後も定住促進に向けた取り組みを進め、地区人口の増加を図る。また、空屋・空地活用調査結果の活用を図る。
	うまくいかなかった点	・市街地循環バスの利用者は増加しているものの、高浜BTのバス乗降者数が減少し、まち歩き者数の増加につながらなかった。	・一方、中心市街地と文化ゾーンの連携を維持し、文化ゾーンにおけるソフト事業の取り組み、楽しく歩けるまちづくりの方策等を検討する。
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・特になし	・市街地循環バス利用者の維持に努めるとともに、公共交通の利便性向上や利用者増加に関する方策等を検討する。
	うまくいかなかった点	・指標2の設定において、高浜BT以外の主な市街地循環バス乗降場の利用者が増加しており、市街地循環バスの全体利用者は増加している。指標設定の際に、点ではなく面としてまちなかの主な乗降場も考慮すべきだったと考える。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・住宅団地の名称募集を実施し、住民の意向を踏まえ、住宅団地の名称を『西山台ニュータウン』と決定することができた。また、広報を通じて募集結果を公表することができた。	・今後も住民の意向を踏まえた取り組みを進めるとともに、その結果の公表に努める。 ・また、維持管理等に関しても積極的な住民参加を呼びかける。
	うまくいかなかった点	・整備箇所の維持管理について、地元住民との関わりを考慮する必要がある。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・特になし	-
	うまくいかなかった点	・特になし	
その他	うまくいった点	・特になし	-
	うまくいかなかった点	・特になし	

### 添付様式6－参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

現在、今後のまちづくり交付金の活用は未定である。

## (5) 事後評価原案の公表

### 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	ホームページに掲載	平成21年12月	平成21年12月1日～15日 (2週間)	電話、FAX、電子メール	建設課 (まちづくり交付金担当)
広報掲載・回覧・個別配布	広報誌で原案を公表している旨を掲載	平成21年12月発行 広報12月号	平成21年12月1日～15日 (2週間)		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	建設課窓口での閲覧	平成21年12月	平成21年12月1日～15日 (2週間)		

住民の意見	特に寄せられた意見はなし。				
-------	---------------	--	--	--	--

## (6) まちづくり交付金評価委員会の審議

### 添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	馬場先恵子(金沢学院大学 美術文化学部 教授)	平成22年1月22日	建設課 (まちづくり交付金担当)	志賀町まちづくり交付金 評価委員会設置要綱	志賀町都市計画審議会
その他の委員	9名(志賀町都市計画審議会委員)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・達成できなかった指標2について、方法書に記載されている集計方法を変更すればよいのではないかという意見に対し、方法書の提出時期及び都市再生整備計画の最終提出(第6回変更)の手続きが終了した旨を説明することで理解を得た。
	実施過程の評価	・実施過程が適正であることが確認された。
	効果発現要因の整理	・効果発現要因の整理が適正であることが確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案は、適正に公表されたことが確認された。
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・空屋・空地活用調査を行っているので、まちなかでの定住促進の取り組み内容としてその旨を具体的に記載してほしいとの意見があった。 ・当初計画で実施する予定となっていた「コミュニティバスのデマンド化社会実験」については、今後、実施する予定はないのかという意見に対し、実施の見通しが無い旨を説明し、今後、これに準ずる準公共のシステムの検討してほしいとの回答を得た。 ・想定される事業として「既存施設利用を促すPR」が記載されているが、PRだけでなく、住民参加も充実してほしいとの意見があった。
	フォローアップ	・特になし
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他		・変更により削除された事業の「まちなか土地利用更新・居住支援事業」や「まちなか空家活用」について、今後、検討してほしいとの意見があった。 ・ハード面については、ある程度整ってきているので評価できるが、ソフト面や住民参加について、及び腰になっていた点が残念であるとの意見があった。

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

## (7) 有識者からの意見聴取

### 添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、まちづくり交付金評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
馬場先恵子(金沢学院大学 美術文化学部 教授)	平成21年12月25日	建設課 (まちづくり交付金担当)

有識者の意見	<p>1/22に開催する評価委員会の委員である馬場先教授に事前説明を行い、意見を聞いた。</p> <p><b>【馬場先教授の意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員長は地元の方から選出する。</li> <li>・指標1の参考として、人口構成(~14歳、15~64歳、65歳~)の推移を提示すること。</li> <li>・指標2の補足説明として、市街地循環バスの利用状況と町全体のバス利用状況の推移を提示すること。 また、主なバス停の乗降量を提示すること。</li> <li>・指標3に関して、文化ホールの利用件数に関する資料の有無を確認し、参考とすること。</li> <li>・指標の達成、未達成の理由を具体的に記入すること。</li> <li>・狭隘道路の改善を歩行環境の改善に修正すること。</li> <li>・添付様式6の内容を充足すること。</li> </ul>
--------	---